わんぱくはうす

興味を育み園児の成長に

ふしぎ理科実験教室 スライム作りに笑顔

鹿角市花輪の「わんぱくはうす」（杉江由美子園長）は、年長児16人を対象に「ふしぎ理科実験教室」を行っている。青森県内の学校を訪ね「1日体験科学教室」などを行っている弘前大学大学院客員研究員の杉江瞬博士が講師を務め、実験で砂鉄を加えたスライムを作り磁石で動く様子が置かれ、園児たちも遊びの延長としてそれぞれの活動を楽しんでいるという。

理科実験教室もそういった活動の一つで、2020年から取り組んでおり、年間4回の通常教室のほか、弘前大学の教授を招いた「特別理科実験教室」を毎年開催している。

今年度は7月に1回目の教室が行われ、傘袋をつかったロケットを製作。尾翼の役割や先端に取り付けたプラスチックカップが重りとなることで飛距離が伸びることなどを体験を通じて学んだという。

この日の実験テーマは「スライム」。杉江さんははじめに「説明をしている時は、静かに、最後まで話しを聞きましょう」と園児と呼び掛け。薬品の中には人体に害がある危険な物があることを伝え、安全に楽しく実験を行うための約束事を確認した。

スライム作りは始めに、「緑の食紅で色を付けた水」と「洗濯のり」をそれぞれ30ミリリットル計量し混ぜて撹拌。園児たちは、友達と協力しながら材料がこぼれないように慎重に作業を進め、最後に「飽和ホウ砂水」を混ぜ入れ液体が固まると「すごい、スライムになった！」と目を輝かせ、自作のスライムを手に伸ばしたり丸めたりと感触を楽しんだ。

さらに追加実験として「砂鉄」を混ぜた「動くスライム」を製作。磁石を近づけるとカタツムリの目や触角の様にスライムが伸びてくる様子に「スゲー」と歓声が上がり、磁石遊びにも興味を示していた。

この教室を通じて、園児たちは実験という遊びを通じて、▽人の話しを聞く▽指示を再現して行動する▽友達との協力―など小学校進学に必要な力を楽しみながら身に着けている。

何より、杉江園長は、「得意なことや興味があることに出会えると、それは自信につながります。新しいことを知り、好奇心で輝く子どもたちの笑顔が素敵」とさらなる成長を期待している。

友だちと協力して材料や薬品を計量

完成した自作のスライムに笑顔が広がった

感じた驚きや疑問から理科の楽しさを感じてほしいと実施。このほど行われた今年度2回目の教室では、「スライム作り」に挑戦し、指示通りに材料を計量して混ぜる―という実験の基本を学んだ他、砂鉄を加えたスライムを作り磁石で動く様子に「すごーい」「楽しい」と笑顔が広がった。

同園では、さまざまな活動を通じて園児たちの可能性を育みたいと、百人一首や茶道、英語、お絵かき教室、体操などの活動に取り組んでいる。いずれも「出来るようになる」よりも、興味を持つことに重き